

北海道の製紙業と港湾との関わり

私たちの生活に欠かせない紙の持続的な生産と供給を支える北海道のみなと

過去60年間における
北海道の産業経済と港湾利用の関わり【その3】





1 紙に囲まれた私たちの生活。

情報を得る

新聞、チラシ、パンフレット、雑誌など



書く・描く・印刷する

書籍、コピー用紙、ハガキ、半紙など



取引する

紙幣、レシート、切手、証書など



包む

生活の色々なところに「紙」が使われています。

封筒、ショッピングバック、包装紙、米袋など



入れる

段ボール、菓子箱、証書筒など



拭く

ティッシュペーパー、トイレトペーパー、紙タオルなど

他にも

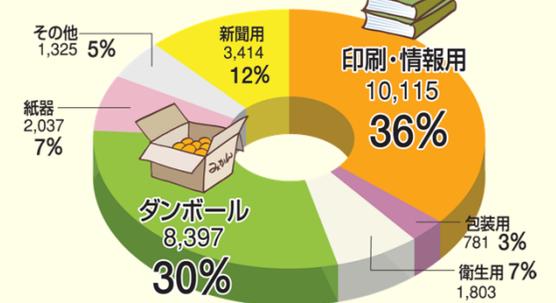
壁紙、石こうボード、電子基板など

お役立ちコラム

日本の紙需要

印刷・情報用紙が最も多く(36%)、段ボール(30%)、新聞用紙(12%)などの順となっています。

紙需要の内訳(2009年)(千トン)



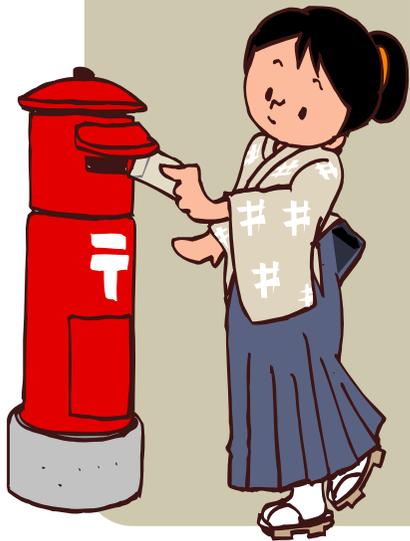
資料：2011年紙・板紙内需試算報告(日本製紙連合会)



2 日本が豊かになるために必要だった「紙」と北海道のみなど。

戦前、日本の近代化に必要な「紙」、その原料調達が容易な北海道に製紙工場が数多く作られました。

昔 (明治時代～戦後)

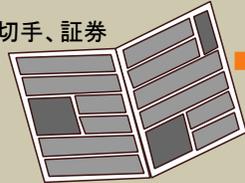


時代背景

- 文明開化 (近代国家制度の確立)
- 自由民権運動、日清・日露戦争

紙の用途

- 紙幣、郵便切手、証券
- 新聞



北海道の製紙業

- 1901年 北海道初の製紙工場 (釧路町天寧) を皮切りに次々と製紙工場が操業



北海道港湾の役割

- 紙製品を全国に対し供給

現在 (高度経済成長期～現在)

時代背景

- 戦後復興と経済成長

紙の用途

- 経済成長とともに紙の需要が急増
- 用途が多様化 (ティシュペーパーやトイレトペーパー、量り売り・木箱→容器・段ボール)

北海道の製紙業

- 需要増とともに原料不足に陥る (国内資源の枯渇)
- 海外木材チップの導入 (1960年代) (1995年53.4%→2010年62.7%)

北海道港湾の役割

- 海外からの木材チップの輸入に対応 (1967年釧路港、1968年室蘭港、1970年苫小牧港)



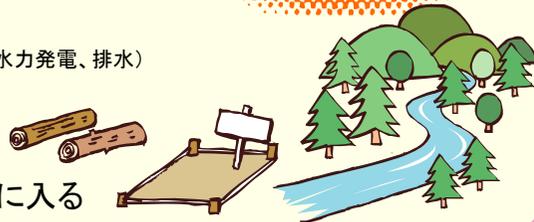
お役立ちコラム

製紙工場が北海道にたくさん作られた理由

現在北海道に9つある製紙工場のうち、5つは明治～昭和初期に作られた工場です。

1942年における北海道の紙生産シェア 32.2%

- 1 豊富な水 (製造過程で大量の水を使う、水力発電、排水)
- 2 豊富な森林資源
- 3 産炭地に近い
- 4 広大な土地が安く手に入る

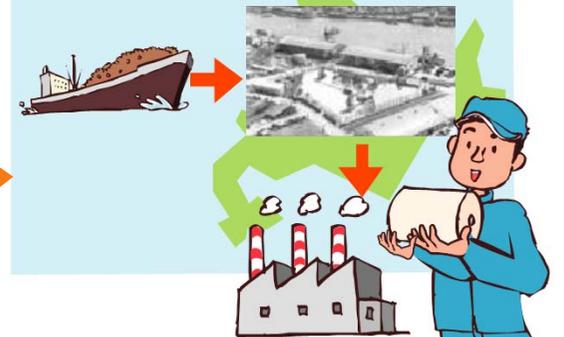


北海道の港が貢献

戦後、紙需要の急増に伴い、原料不足に陥りましたが、海外産木材チップの調達で、北海道のみなどが貢献しました。



紙の原料不足を港が解決！



出典：昭和17年工業統計表(印刷用紙(含新聞用紙)、包装用紙、板紙の生産数量シェア)



3 いつまでも「紙」を使えるために貢献する北海道のみなど。

私たちの生活に欠かせない「紙」。
限りある資源を有効に使う時代となった現在では、
原料の調達(木材チップ・古紙)と製品の輸送を
効率的に行えるよう、北海道のみなどが支えています。



北海道の製紙業

北海道は製紙工場は、
2,300万世帯分、
全国の約半数の
新聞用紙を生産しています。

貢献3

製品を輸送した帰りに、効率的に
消費地から原料となる古紙を輸送

貢献2

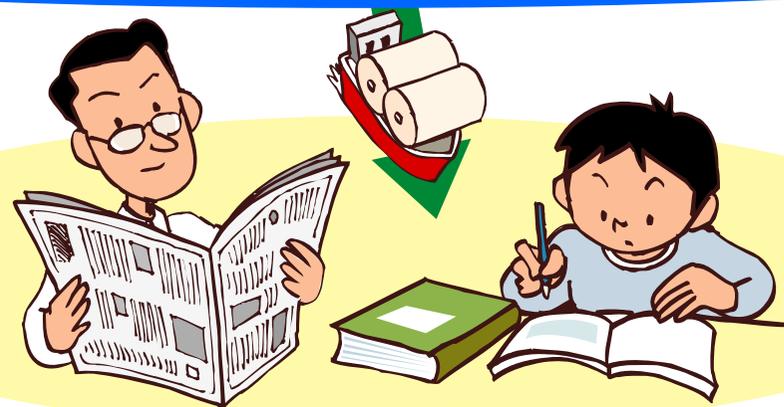
紙製品を積んだ大型トレーラーと
RORO船で効率的に輸送
※1

貢献1

大型船で木材チップを
効率的に調達

北海道のみなど

古紙利用率の向上に貢献
1995年53.4%
↓
2010年**62.7%**
資料：(財)古紙再生促進センター資料



全国の消費者

※1 RORO船：船の中にトラックやトレーラー等が直接
入って貨物の積み降ろしを行う輸送船